

# 岡山県 真庭なりわい塾公開講座 地域にひらかれた、地域とともにある学校へ ～真庭市初のコミュニティ・スクール「中和小学校」の実践とこれから～ 学校開放で地域をつくる～スクール・コミュニティの可能性～

- ・**コミュニティ・スクール(CS)** = 「**地域**とともにある**学校**」は学校運営改革法に基づき教育委員会が学校を指定し市民も権限を持ち地域学校協働活動と一帯で運営・支援する**国の施策**
- ・**スクール・コミュニティ(SC)** = 「**学校**とともにある**地域**」は**CS**より上位実践  
学校施設開放による生涯学習・福祉・次世代育成・まち育てを住民自治で推進する**秋津モデル**
- スクール・コミュニティ**は、**コミュニティ・スクール**の学校運営の参加や教職員の任用にも意見を述べるだけでなく、授業や行事などの校区住民との協働と学校施設の住民との共用や全面開放をふくめて推進することにより、学校教育の充実はもちろん、校区全体を学びのコミュニティにまで高めることを主眼にした新しいあり方である。  
岸裕司著「中高年パワーが学校とまちをつくる」(岩波書店・2005年)

↓コミュニティ・スクール&スクール・コミュニティを推進する校門の看板

↓秋津っ子バザー受付で



2022年11月12日  
岸 裕司

(株)パンゲア代表取締役

※広告デザイン&福祉補助具製造販売会社

スクール・コミュニティ研究会代表

千葉県習志野市立秋津小学校元PTA会長

秋津コミュニティ顧問

秋津小学校コミュニティルーム運営委員会顧問

文部科学省コミュニティ・スクールマイスター

日本大学非常勤講師・社会教育経営論

# 地域とともにある学校(CS) + 学校とともにある地域(SC) = 秋津モデル

- ① 授業・行事を住民と協働して生涯学習 ① 学ぶ機能(ソフト)  
CS=ソフトに千葉県初2006年度~↔1992年度開始のクラブ活動の協働の成果などから
- ② 開校時・学校外時間も秋津コミュニティが生涯学習 ② 施設機能(ハード)  
校舎内施設開放=ハード・1989年生涯学習研究指定~⇒学校支援地域本部のモデル

落語で生涯学習の  
おじいちゃん

秋津はCS前から長年なにをしてきたか

秋津モデルとは何か



地域のおじいちゃんが落語(4年生国語)/音楽サークルと協働(全学年)



「ぼか面(めん)踊り」(3年総合・図工・音楽)を秋津コミュニティのサークルが

狭義と広義の学社融合を推進してきた



校外学習に住民同行



「ぼか面(めん)踊り」を秋津まつりで披露



休日のまつりは授業(全学年・ソーラン節)

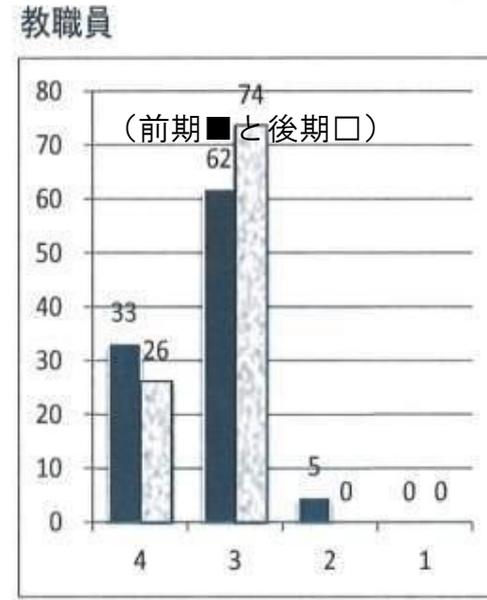
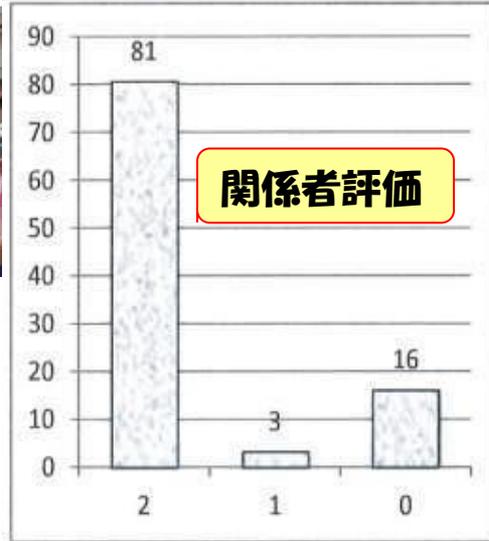
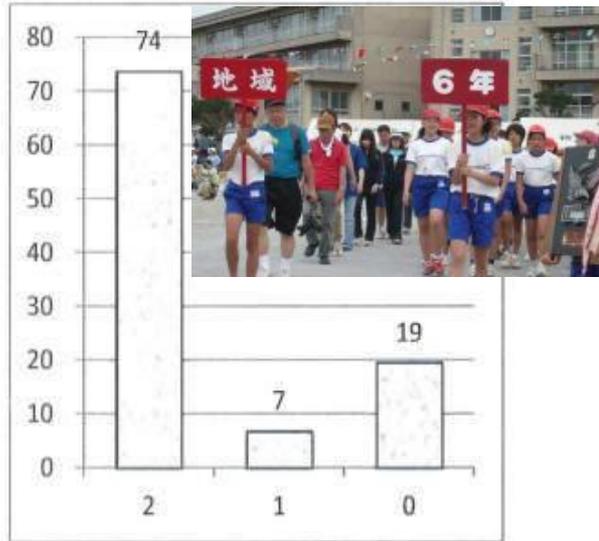
⇒ここで秋津映像① 10分「真相報道バン記者」日本TV2008年12月特番で取材したが未放送。矢島文貴記者の自主制作14年前の映像ですが、CSや地域学校協働活動により「不登校児ゼロ」と教員が発言などの効果が教員の意見で語られています。



<https://www.youtube.com/watch?v=M-SkmpgEQBk>

# コミュニティ・スクールの秋津小の学校評価

質問項目13 学校は、保護者や地域と積極的に連携し子どものよりよい成長のために努力している  
 保護者 (3学期のみ) 地域 (3学期のみ)



地域が先生を応援し、スリム化するから  
 コミュニティ・スクールの効果出る

秋津モデル

**住民と真に協働するから教職員は子どもに集中！**

○保護者・地域・教職員・・・良好

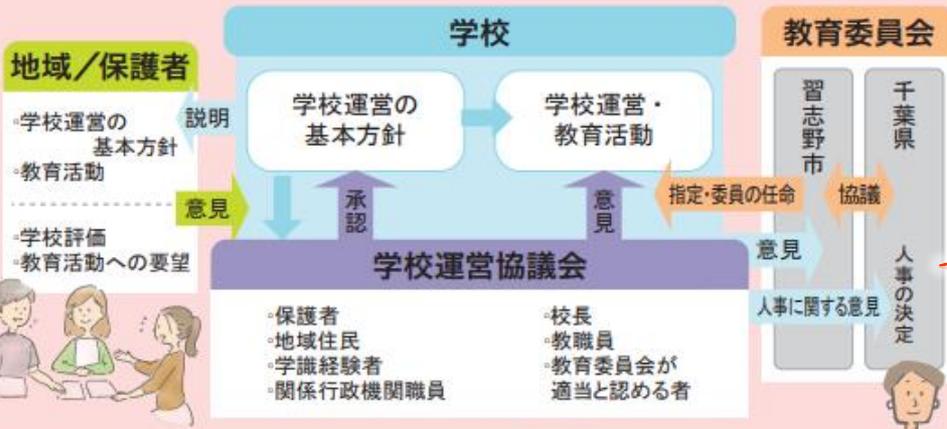
4: 大変そう思う、3: そう思う、2: あまり思わない、1: 思わない、0: わからない

秋津小学校はコミュニティスクールとして、これまで保護者及びPTA組織、地域の方と連携し様々な幅広い支援を地域の方々から受け、子どもたちは通常の学校ではできない体験をしたり、学習支援を受けることができています。行事の際の安全支援や情報発信の支援、環境美化の支援など教職員も大いに助かっている。その分、教職員は子供に目を向けることができた。教職員のアンケート結果も「努力している」が去年より増加している。

学校運営について学校運営協議会・パートナー会議で学校の考えを伝え、協議し、ともに協力し合ってきている。また折々で学校として支援が必要なことを地域に伝え協力していただいている。特に今年度は地震、放射能、感染症といった危機から子どもたちを守るための危機管理・安全管理の徹底とこれまでの安全教育を見直し改訂してきたが、このことについてもご意見を頂き「大地震・津波マニュアル」を策定することができた。協議内容は子どものよりよい成長を願って行ってきており、学校長の学校運営の助けとなっている。今後とも継続していきたい。「評価のための評価ではなく、次につなげる形成的評価(2013年3月)」

①学校負担が軽減するように②保護者・住民も主体者として真に協働し③CS制度の理念と思想の理解があったから効果でた⇒真のパートナーと認め合う意識転換がポイント

# 学校と地域の新しい関係づくり

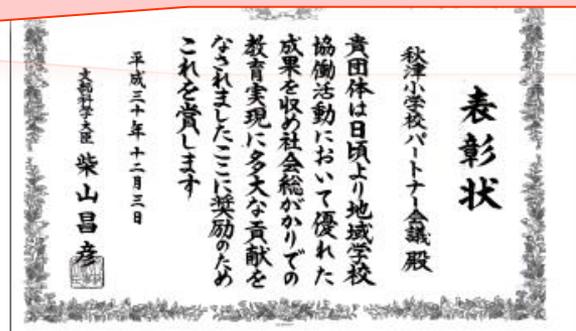


## 秋津小・CS=学校運営協議会とパートナー会議が2度の文科大臣賞

CSが優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰・平成24年度



パートナー会議が地域学校協働活動で文部科学大臣表彰・平成30年度



パートナー会議が担う4分野のDOが地域学校協働活動の先駆



CS以前からの無償の住民参画のパートナー会議が  
①学校と地域協働の推進事業の計画・立案・実施・評価②学校及び運営会議の改革促進③ピオトーフや飼育小屋なども住民と手づくりし、学習教材に活かしてきたから成果出た!

H4年発足の住民自治による生涯学習推進組織の秋津コミュニティの前身と、H7開設の余裕教室などを開放したコミュニティルームで活動のサークルによる学校との融合活動の成果から、H14年度より文部省の「新しいタイプの学校運営の在り方に関する実践研究」の指定を受けパートナー会議を発足今日に至る。※パートナー会議委員は無償。CS委員は有償

で、秋津モデルはCSの先へ⇒学校を365日活用し次世代育成・まち育ても！

放課後・休日は秋津コミュニティが生涯学習 1989年生涯学習研究指定～

秋津小学校コミュニティルーム 年間延べ1.3万人利用

放課後や休日にも利用できる余裕教室4室＋余裕敷地300㎡＋陶芸窯

◆子どもと大人の融合＝子ども教室も秋津コミュニティが自主運営(年240日開催)

住民自治のスクール・コミュニティ

教育長が管理責任者なので校長に責任がない住民委員の運営法

スクール・コミュニティと呼ぶ授業外活動＝広義の学社融合

秋津・地域であそぼう！算数・数学、国語、英語、書き方、水彩画、工作、民謡、防災キャンプ教室などがあり学力格差の再生産抑止に寄与

放課後・休日は先生は休み、学校開放して住民自治での社会教育・生涯学習を推進



中学生の  
数学教室

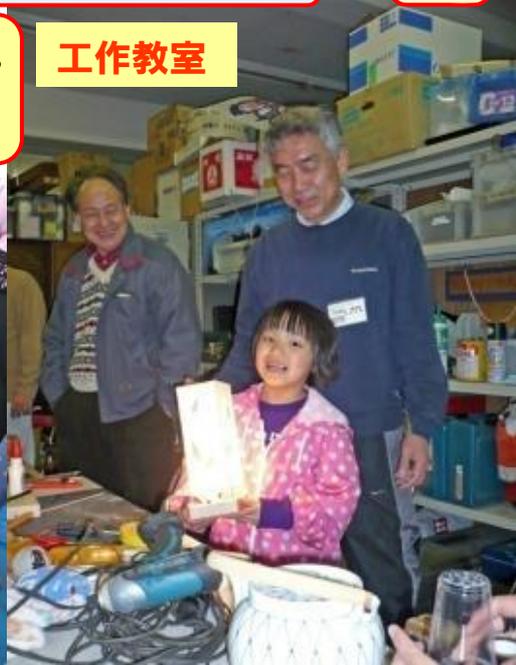


教職員の出勤義務はナシ

水彩画教室



放課後はお母さんや高齢者、休日はおやし担当。  
参加費1回0～100円、すべての教室に参加でき、保険代年500円/1人



工作教室

# 「学校とともにある地域」= スクール・コミュニティ(SC) ※学校外活動 学校を活動拠点に生涯学習・福祉・次世代育成・まち育てを一体に推進する秋津モデル

教員退職後の居住地・秋津での子どもとの触れ合いが楽しいです！



秋津小学校コミュニティルーム  
市教委と話し合い公設民営で開設  
鍵も預かり住民自治で運営  
授業外活動なので  
教職員の負担なし

地域開放の秋津小学校コミュニティルームの多様な使われ方。  
住民自治での学習・遊びなどの多世代交流



↑高校入学祝いをコミュニティルームで

広義の学社融合

新キーワードは住民の学校「支援」から「連携・協働」へと文科省が提唱  
「協働」とは、同じ目的・目標に向かって、対等の立場で協力して共に働くこと  
(文科省「コミュニティ・スクール2018」パンフ)と定義。「協働」と「融合」は異音同義(岸)

# サステイナブルタウンを目指す秋津コミュニティ推進の

**スクール・コミュニティ** = **学校**とともにある**地域** その目的は、

- ① 誰でもが、いつでもどこでも学べる、**生涯学習 & 健康なまち育て**に寄与する学校と地域をつくる
- ② 誰でもが、**安心して安全に学び働き暮らせる、ノーマライゼーションのまち育て**に寄与する学校と地域をつくる

**行政・学校は住民自治力を信頼し、学校の鍵を住民に預ける度量をもち、真の協働を目指そう！ 保護者・住民は「学校任せ」ではなく、応援団になろう！**



げ！カエルだ！  
ピオトープの大池で



外国からの視察者を  
ばか面同好会が歓迎



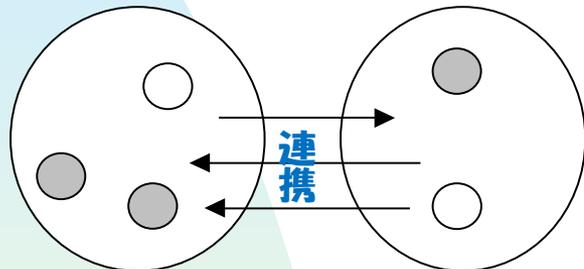
利用者みんなでコミュニティールームの大掃除

# 協働ソフトの推進は、ビジネスで会得した Win&Winの【融合の発想】をPとTに適用

P保護者もT教職員ももともに主体者A・BとするPTA改革  
依存・支援から双方が自立した上での生涯学習を協働する学社融合を導入

◆ 連携と融合は似て否なるもの。使い分けが大切◆

【 連携 = Give & Take 】

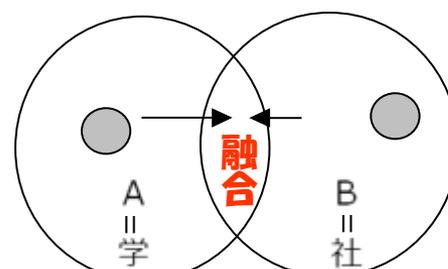


|| 「連携」は重ならない

物的・人的な資産の交換の状態

※交換バランスが一方に偏りがちで長続きしにくい

【 融合 = Win & Win 】



|| 「融合」は意図的に重ねる

物的・人的な資産の共有や協働の状態

※はじめから双方のメリットを仕組むので長続きする



創作秋津オペレッタの練習風景  
1992年度 第1回学びピア千葉

秋津実践

【融合の発想】関わりあう2人以上や機関同士が、主体者A・B双方の目指す目的を同時に果たし、ときにはCという新しい価値をも生むように、はじめから意図して、あることを仕組む発想法。

出典：岸裕司「地域暮らし」宣言－学校はコミュニティ・アート！（2003、太郎次郎社）

融合の発想 = A・B双方がWin&Winの一形態が「学社融合」

- ①狭義の学社融合：開校時間帯・授業や行事を地域住民と協働・上限約200日
- ②広義の学社融合：開校時以外も含む学校施設開放・授業外活動（教員は関与なし）・上限365日

# 子縁 (こえん) で学校と地域・地域と地域をつなぐ

学校を拠点に365日生涯学習を楽しむスクール・コミュニティを実現

休日なので校舎に教職員はいない  
≪権利としての休日保障が  
スクール・コミュニティの住民自治



校庭に手づくりしたビオトープに、  
休日に集いザリガニ釣りを楽しむ地域の人々

**子縁(こえん)は、子を持つ親はもちろんであるが、何らかの事情で子を持たない夫婦や子や孫などもいない、または同居していないお年寄りなどにも拡大させて、地域社会でさまざまな人と人をつなぐ新しい縁結びの考え方。**

初出：岸裕司著『学校を基地にお父さんのまちづくり』（太郎次郎社、1999年）

# 秋津モデルのSCへ誘うためのコーディネーターの役割・資質

- ◆何をするにも「融合の発想 = Win&Win」で⇒**関わる相手をおもんばかる**
- ◆地域の課題を住民が解決できるように導いてきた社会教育本来の力量を、学校づくりに活かせる資質
- ◆教職員や地域住民の「学ぶ = 生涯学習」の力量を高め、かつ蓄積して継続させる資質⇒**集った人々をサークルへと導き、継続させる資質**
- ◆教員の教育課程を編成する優れた専門性を、学社融合で住民の生涯学習とまち育てへと活かせる資質
- ◆学校の諸施設を、生涯学習とまち育ての観点から、学校と教育委員会や首長部局などの理解を得ながら全面的に住民への開放へと導く資質

おやじらがジェンダーを学ぶ

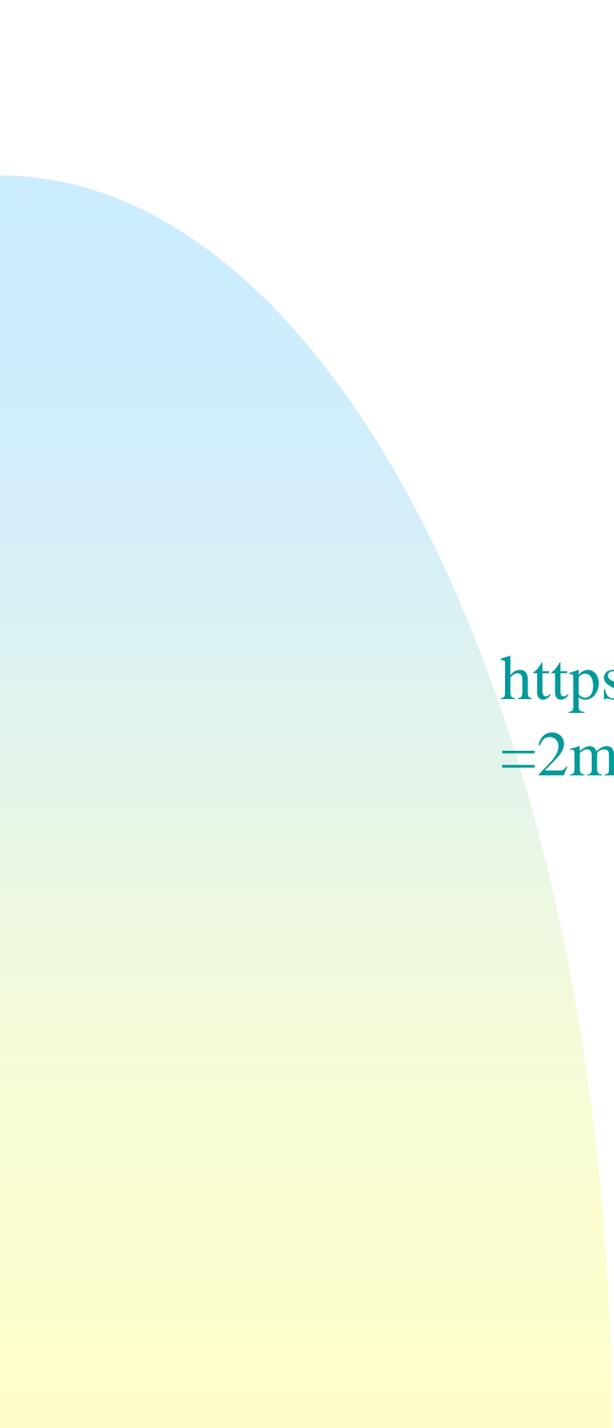
☞「おやじの畑」から

「うらの畑」へ名称変更☞



⇒秋津動画②CS&SC実践 15分清水早苗監督映画・日本大学芸術学部映画学科2006年度卒業制作

秋津小学校や秋津コミュニティ活動の2006年の映像ですが、教育基本法第3条と第13条、地域学校協働本部、地域学校協働活動、地域学校協働活動推進員、コミュニティ・スクール、融合の発想、狭義の学社融合、広義の学社融合、スクール・コミュニティ、社会教育士などの最新施策の実践がすべて先駆として描かれています。



<https://www.youtube.com/watch?v=2mTnOSJGsOA>

# 秋津コミュニティ実践から生まれた4つのキーワード

- ① できる人が、できるときに、無理なく、楽しく！
- ② 楽しく、ゆっくり“わたし流”に！
- ③ 自主・自律・自己管理
- ④ 自助、共助、最後に公助のまち育て

協働・地域自治



「一人でもできること」を続けた  
秋津の偉大な「父」と「母」  
若い親は多くを学んだ

←じゃんけんおじいちゃん  
お花のおばあちゃん→

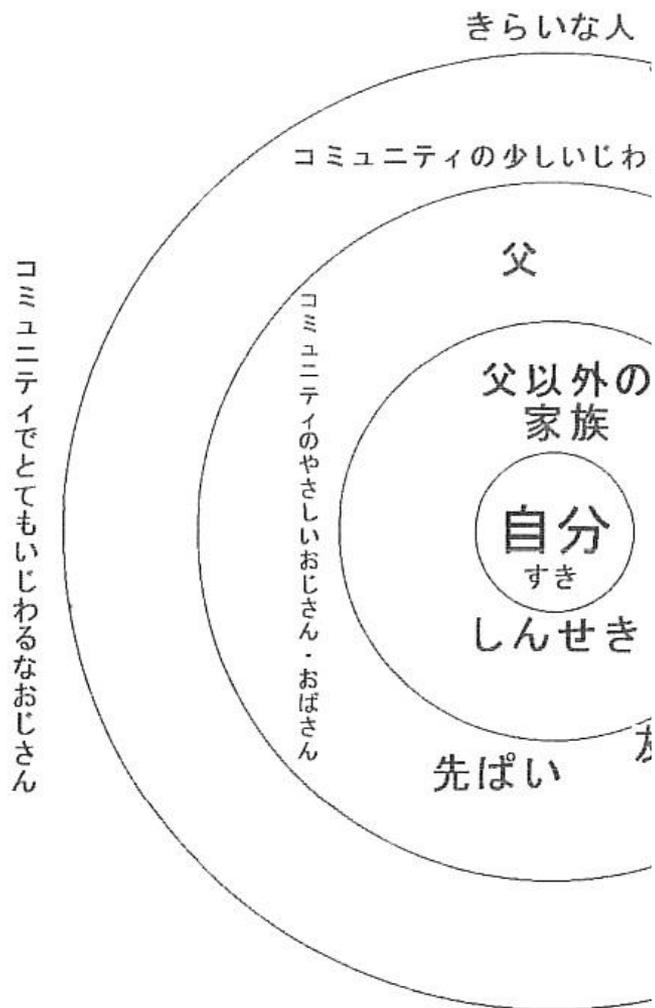


「**たった一人でもできること**」を秋津誕生草創期に**故久我喜代治翁**は校門前の信号横に朝夕立ち子どもたちとじゃんけんをしながら安全見守り。殺風景な埋め立ての校庭に種を撒きお花を咲かせて子どもたちと触れ合った**故近藤ヒサ子おばあちゃん**。

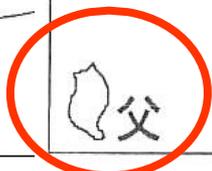
**真庭市立中和小学校区にエールを送る！ありがとうございました！**

# おまけ 秋津っ子の地域の人への親しみやすさ

学校や地域参画しないお父さんは……もはや蚊帳の外？……  
か・わ・い・そ・う



中1女子



友達  
ムカつく

小6女子